

中・長期目標 (学校ビジョン)	生徒一人ひとりに合わせた指導を行い、生徒の学力向上と進路実現を支え、地域や保護者からの信頼を獲得する。 今後の受験状況やニーズに合わせた予備校のあり方を考え、実践し改革を行う。
--------------------	---

今年度の重点目標	1 より多くの生徒を集める。
	2 生徒一人ひとりに合わせた面談・学習アドバイスを行う。
	3 保護者への情報発信を行う。
	4 教職員の相互理解を深める
	5 進学実績の向上を図る。
	6 地域への情報発信を積極的に行う。

評価項目	現状認識	年 度 当 初			評価結果 5月			
		具体的目標	具体的な取り組み	評価基準	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 生徒数の獲得	○定員を満たす生徒数の獲得に至っていない。 ○生徒を獲得するための講座の設定が不十分である。 ○広報活動が不十分である。	新しい取り組みを実践、授業を充実。	①高卒生の3つのスタイルの確立 ②現役生のクラス授業とAI・集団個別の差別化 ③授業アンケートの実施	①全教職員がスタイルの違いを把握し、説明ができ、3つのスタイルを実践する。 ②クラス授業とAIの違いを把握し説明ができ、実践する。 ③アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①実践できていた。②担当しているコースごとには説明できるようになってきた。③74%であった	A	受験生の減少や共通テストの実施などで浪人を選択する生徒が減少した。その中でも生徒数を獲得するためにも、クラス授業だけでなく、AIの活用・生徒の学習計画などさらに生徒に寄り添ったサポートの必要がある。	
		生徒のニーズに合わせた特別講座の実施。	①特別講座の実施 ③特別講座アンケートの実施	①特別講座を年間で30以上実施する。 ②アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ③年間で校外生が30名以上受講する A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①32講座実施 ②72%であった ③37名の校外生が参加	B		生徒のニーズに合わせた特別講座が実施できた。今回得た「生徒の声」を活用して、今後の講座設置に役立てる。
		適切な時期に効果的な広報活動を行う。	①短期講座・特別講座の案内 ②通年の講座案内 ③HPやSNSを活用し、発信	①短期講座・特別講座の案内を3～4週間前を目安に情報を公開する。 ②通年の講座案内を多くの保護者・生徒にとってあすなろの魅力がわかりやすく、興味深いものにする。 ③HPやSNSを活用し、あすなろの取り組みを月1回発信する。 A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①おむね案内の公開が3週間前になった。 ②通年の案内を学期ごとに実施できた。 ③SNSがほぼ手が付けられなかった	B		できる限り早めの情報公開を心がける。また、積極的にやっていることのアピールを今後も行っていく。
2 生徒と面談	○生徒と学習面における長期目標・ビジョンの共有が不十分である。 ○学習計画の実践が不十分である。	○定期的な面談を実施し、長期的な目標・ビジョンを共有し、教科ごとの学習計画を考え、実施、評価を行う。 ○授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①面談の実施 ②担任アンケート結果に基づく査定を行う。 ③授業アンケート結果に基づき査定を行う。 ④授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①面談の実施回数が4回以上 ②担任アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ③授業アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ④授業以外でも積極的に声掛けを実践する。 A：①～④すべて達成 B：①～④のうち3つ達成 C：①～④のうち2つ達成	①定期的に面談を実施したが、8回はできなかった。 ②74%であった ③55%であった ④積極的に声掛けを実施できた	D	定期的な面談は実施できたが、8回はできなかった。今後、実施可能で効果的な回数を模索していく。また、アンケートについては「満足している」を含めると、それぞれ80%以上70%以上となる。さらなる、授業やサポートを充実させる必要がある。	
3 保護者への情報発信	○保護者の言葉・要望に傾聴することが不十分である。 ○保護者への定期連絡が不十分である。	○三者懇談時に保護者アンケートを実施し、保護者の言葉・要望に傾聴し、それを踏まえた面談の工夫や改善を行う ○保護者へ生徒との二者面談の報告などを月1回発信する ○欠席率が高い生徒・保護者への連絡を密にする	①アンケート結果にもとづく査定の実施 ②月1回生徒の様子を発信する（方法は問わない） ③欠席率が高い生徒（連続3日欠席・同じ講座を連続2回欠席）・保護者への連絡を直ちに行う。	①保護者アンケートの評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ②保護者への連絡実施回数8回以上 ③欠席率の高い生徒への連絡を実施 A：①②③すべて達成 B：①②③のうち2つ達成 C：①②③のいずれか1つ達成	①93%以上が「とても満足している」と解答 ②高卒生・高3生では4回程度実施できた先生もいたが、先生間で差が大きかった。 ③欠席者への連絡を実施できた。	C	面談での対応については、全体的に高い満足度を示す結果であった。しかし、日々の保護者への連絡はまだ改善すべき点がある。今後も改善に努めていきたい。	

年 度 当 初					評価結果 5月		
評価項目	現状認識	具体的目標	具体的な取り組み	評価基準	経過・達成状況	評価	改善方策
4 教職員の相互理解	○教職員の情報共有が不十分である。	○学習に関わるコースを超えた教科会・コース会を実施し、新しい授業の実践を行う。	①学習に関わるコースを超えた教科会・コース会を実施 ②AIの指導方法の充実 ③新指導要領・生徒のニーズに合わせた授業の実施	①学習に関わるコースを超えた教科会・コース会を年2回実施 ②AIの指導方法の充実 ③新指導要領・生徒のニーズに合わせた授業の実施 A:①②③すべて達成 B:①②③のうち2つ達成 C:①②③のいずれか1つ達成	①一部実施できた ②AI数学については、指導方法が充実してきた ③小論文・面接などの対策を実施できた	B	教科によっては、教科会の実施が不十分であった。今後は困ったことがあったら、すぐに相談できる体制を整えていきたい。
		○生徒の情報交換の場を設ける。	①生徒情報の共有フォームを作成する。 ②特別に情報共有すべき生徒については、職員会議なので全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。	①生徒情報の共有フォームを作成する。 ②特別に情報共有すべき生徒については、職員会議なので全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。 A:①～③すべて達成 B:①の達成かつ②・③いずれかの達成 C:①のみの達成	①面談記録や生徒情報の共有フォームを作成した ②③限られた生徒でしか実践できなかった	B	面談記録や生徒情報の共有フォームができた。今後運用しながらさらなる改善をし、生徒に適切なアドバイスをするために活用していく。
		○運営に関わる会議を充実させ、情報共有と意見が出しやすい環境作りを実践する。	①管理職・職員会議を実施をする。 ②資料などの準備を2日前までに行い、会議前までに目を通してもらう。 ③意見を言しやすい環境を作る。	①管理職・職員会議を実施をする。 ②資料などの準備を2日までにやり、会議前までに目を通してもらう。 ③意見を言しやすい環境を作る。 A:①～③すべて達成 B:①の達成かつ②・③いずれかの達成 C:①のみの達成	①定期的実施できた ②資料準備が間に合わず、実施できていなかった。③積極的な発言が少なかった。	C	限られた時間の中で、建設的な意見が多くで、スピーディーに物事が決定できるように会議のあり方を見直ししていく。
5 進路の実現	○合格者は出ているが、難関大学合格の合格が少ない。	○高卒生の国公立大学進学率60%以上かつ難関大学・医歯薬合格率20%以上	○高卒生のニーズに合わせた、合格に向けた授業の実践・合格のための科目ごとの学習計画の作成・長期的な目標・ビジョンを共有し、教科ごとの学習計画を考え、実施、評価を行う。	①国公立大学進学率60%以上 ②難関大学・医歯薬進学率20%以上	①37% (35名中13名合格) ②17% (35名中6名合格)	C	共通テストが難化し、思うように得点が伸びない難しい入試であった。個別対応の充実を含め、今後も努力をしていきたい。
6 地域への情報発信	○鳥取県の学力の現状や受験の仕組みの変更が、一般には知られていない。 ○R2年はオンライン質問教室を実施したが、今年もこのような社会貢献活動を実施していく必要がある。	○地元予備校として、受験に関する情報を地域に発信する機会をできるだけ設ける。	○校外生6名以上参加を目標に一般公開の進学セミナーを学年別を実施・セミナーアンケートの実施・要項の作成。	①進学セミナーなどの実施②各説明会ごとに校外生5名以上③アンケート結果の評価項目「とても満足している」以上が全体の70%以上④要項の作成とスムーズな実施 A:①～④すべて達成 B:④の達成かつ①～③のうち2つの達成 C:④の達成かつ①～③のうち2つの達成	①④短期講座前のセミナーを実施でき、新しい取り組みも行えた。 ②多くの校外生を集めたセミナーとそうでないセミナーがあった ③とても満足してるが79.3%であった。	A	セミナーに卒業生を講師として初めて招いた。受験生にとっては、身近な人の話でもあり、よい刺激になった。今後もこのようなセミナーを実施していきたい。
		○社会貢献活動を実施。新聞などに取り上げてもらう。	○中学校・高等学校からの依頼での進学講演の実施 ○あすなろ主催での社会貢献活動の実施。 ○新聞などに取り上げてもらう。	①中学校・高等学校からの依頼での進学講演の実施②あすなろ主催での社会貢献活動の実施。③新聞などに取り上げてもらう。 A:①～③すべて達成 B:①～③のうち2つ達成	①高校・他の予備校への講師派遣 ②実施できず ③コロナ対策で取り上げられた	B	あすなろ主催の社会貢献活動とは何かを考えていく必要がある